

マンガでわかる！ 国土管理

～カンタとリコの訪問記

おお さき

宮城県大崎市編



国土交通省国土政策局
総合計画課国土管理企画室

～主人公の紹介～

- ・ カンタのアツすぎる思いに共感し、そのあとを追いかけて始めたピュアな少女。
- ・ 知識はまだ少ないが、時折鋭い質問が飛び出すことも。

- ・ 日本の美しい国土を未来に残していきたいという思いを抱く、大志ある少年。
- ・ 全国各地の事例を自分で勉強していて詳しい。
- ・ マンガの登場人物と既に知り合いであることも。

リコ



カンタ



草が
ボーボーだね。



農家さん！

うん。
リコ、米作りや農村
風景を支えている
のは誰だと思う？

でも、答えは
それだけじゃないよ。

えっ。
ほかには思い
つかないなあ。

正解の

ワクワク♪
どんな話が
きけるかな。

なるこ
リコ、NPO法人鳴子
の米プロジェクトの
上野理事長に話を
聞きにいってみな
いか？

もう一つの答えが
見つかるかもしれ
ないよ。

この景色を守っていくために、
僕らにもできることが
あるんだ。

こんなに美しい
景色が失われて
いくなんで
寂しいわ…。

…けれど、移住して
農家になるのとかは、今は
ちょっとハードルが…。

私にできることが
あるなら
貢献したい！

そこまでできないと
いう人は、リコだけじゃ
ないだろう？

ほかにも
できることがあるの？

ゆきむすび？
初めて聞きました。

ありがとうございます。
これはゆきむすびという
品種なんですよ。

Narukono Kome
Project

そんな特徴のお米が
あったなんて。
まさに、適地適作ですね。

ゆきむすびは、
寒さの厳しい場所で
栽培した方が美味しく
育つんです。

鬼首おにこぶで試験的に栽培に
挑戦した結果、「ゆき
むすび」という名
で品種に登録され
たんですよ。

Narukono Kome
Project

そう。
私たちは、このゆきむすび
を栽培しながら、食と農を
「食べ手」と「作り手」が
一緒になって支えていくこ
とを目指しているんです。

Narukono Kome
Project

なるこ
こんにちは。鳴子の米プ
ロジェクトの上野です。

こんにちは。

Narukono Kome
Project



これは、私のお米で作った
おむすびです。
是非、食べてみてください。

Narukono Kome

美味しい!!

その気持ちが大事なんですよ。消費者一人ひとりの小さな応援が、大きな力になっているんです。



茶碗1杯24円なら私も払えます。ほんの小さな貢献かもしれないけど。



そんな風に考えたことありませんでした。



米農家は、米を買ってくれる人がいて、はじめて収入を得ることができますよね。だから、消費者一人ひとりも、食と農の支え手だと思うんです。

「食べ手」が支えるって、イメージが沸かないんですけど…。



けれど、私たちの取組の原点は、地域内の応援団を増やしていくことです。



今ではありがたいくらいに、かなりの遠方から「鳴子」の「こめ」を思ってくれる方もいらつちやいます。

「食べ手」を広げていくのは、相当大変だったのではないですか。



思ったよりも安いなと思いました。コンビニの100円のおにぎりだって、高いと思わないのに…。



茶碗1杯 = 24円

私たちは、米の価格を自ら設定し、食べ手に直接販売をしています。茶碗1杯にすれば24円。そのうち18円が農家の収入になります。



私たちの思いを地域で暮らす一人ひとりに丁寧に伝え、地域の小・中学校で講演会を行ったり、稲刈り農業体験なども行っています。



鳴子の米プロジェクトの農家の場合

茶碗1杯=24円
農家の収入=18円

一般的な農家の場合

茶碗1杯=18円
農家の収入=12円

私たちは、ブランド化して高級品を売っていきたくはない。けれど、茶碗1杯から6円だけでも多めにいただかないと、農業の継続が難しいという状況を伝えているんです。



そう。実際は、茶碗1杯から12円くらいの収入しか得られていないのが、一般的な農家の現実です。



取組事例に学ぶ課題と解決の方向性①

人（主体）の視点①

定住人口、交流人口の観点に加え、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」にも着目し、人材確保の裾野を広げることが重要です。

NPO法人鳴子の米プロジェクトは、大崎市役所と連携し、地元の学校の食育講演会や消費者への普及・啓発活動としての「食の哲学塾」の開催、農作業体験修学旅行の実施を通じた地域での米づくりや食と農の大切さなどの学習の機会を設けるなど、次世代の担い手確保や「関係人口」の増加につながる取組を実施しています。



人（主体）の視点②

広い地域や複数の主体を対象とした取組の場合は、取組に前向きな主体に先行してもらい、理解を得ながら段階的に取組を拡げていくことが有効です。

NPO法人鳴子の米プロジェクトでは、農と食を「作り手」と「食べ手」の双方で支えていくという理念のもと、「食べ手」の輪を増やしていくために、まずは地域住民にプロジェクトの課題意識を伝えていくことに取り組みました。地域内で農村景観や米作りを支えていく意識が醸成されていくにしたがって、米の予約をする個人や旅館・ホテルが増えはじめ、やがては親戚や友人に広めたいという動きとともに市外・県内外都市部へと「食べ手」が広がっていきました。また、「食べ手」が広がっていくことで、「作り手」側の理解も進んでいきました。



取組事例に学ぶ課題と解決の方向性②

土地の視点①

持続可能な国土の利用・管理のため、外部不経済の抑制や土地の使い方の質の向上に留意しつつ、できるだけ具体的な土地の使い方を検討することが重要です。

NPO法人鳴子の米プロジェクトでは、山間地に適した品種である「ゆきむすび」を導入し、適地適作で栽培しています。



土地の視点②

様々な視点からの効果を意識し、総合的に最も適した土地の使い方を選択することが重要です。

NPO法人鳴子の米プロジェクトでは、米作りを農家だけの問題にせず、観光地鳴子に欠かせない田園風景を生み出す地域の営みと捉えることで、より多くの人々と価値観を共有することが出来ました。



仕組みの視点

人口減少下の持続可能な国土管理のためには、国民一人ひとりが国土に関心を持ち、その管理の一端を担う国民の参加による国土管理（国土の国民的経営）を様々な形で進めていくことが一層重要になります。国土の国民的経営の推進のためには、国土管理の現在の担い手である土地所有者や土地利用主体のみならず、消費者とも価値観を共有し、信頼関係を構築することが必要です。消費者を巻き込んだ国土管理の観点からは、生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組みであるCSA（Community-Supported Agriculture：地域支援型農業）の考え方も参考となります。

NPO法人鳴子の米プロジェクトの事例もCSAの一種といえます。



NPO法人鳴子の米プロジェクトの取組では、鳴子の農業や風景を支えていきたいといった理由から、多くの消費者が、持続的な生産が可能な価格を意識した上で米を購入しており、こうした消費者の行動はエシカル消費^(※)の一種とも言えます。中山間地域等の小規模な農林業は、一部を除けば規模拡大や集約化による効率化が困難で収益性が低い場合が多いですが、こうした土地利用の担い手が「小さな利益」を確保することが出来れば、より多くの地域で持続可能な国土管理を実現できる可能性が広がります。一人ひとりの消費者が、国土管理の担い手の持続可能性も意識した消費行動を実践していくことも大切です。



※
エシカル消費：地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動。消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うことを指す。

参考情報

NPO法人鳴子の米プロジェクトでは、Facebookページを開設しています。こちらもぜひご覧ください！
<https://ja-jp.facebook.com/komepro/>



「マンガでわかる！国土管理
～カンタとリコの訪問記」の
[Facebookページ](#)も開設しています。
マンガの新作をアップしていく予定です。
たくさんの皆様の「[いいね！](#)」を
お待ちしております！

○ Facebookページはこちらです。

<https://www.facebook.com/mlit.kokudokanri/>



**Facebookページ
にリンクします**

○ 国土交通省HPにも掲載しています。

http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/fukugou-sentaku_kokudoriyou.html#manga

